

慢性咳嗽における肥満細胞の分布

藤田保健衛生大学病院 呼吸器内科・アレルギー科

清水秀康、斉藤雄二、橋元恭士、岡澤光芝、加藤敦、竹内保雄、佐々木文彦、榊原博樹

【背景・目的】慢性咳嗽患者は近年増加傾向にあり、なかでも咳喘息とアトピー咳嗽は主要疾患である。またアトピー咳嗽は喉頭アレルギーと類似疾患（もしくは同一疾患）といわれており専門医においても鑑別がきわめて困難な疾患である。またアトピー咳嗽も喉頭アレルギーも、ともに抗ヒスタミン剤に反応を示す疾患であり両疾患には肥満細胞が関連しているのではないかと考えた。

【患者背景・方法】当院耳鼻咽喉科で喉頭アレルギーと診断された症例5例、当科で咳喘息と診断された患者5例の喉頭生検を行った。生検組織標本はホルマリンにて固定後トリプターゼ染色を行った。各組織標本を顕微鏡下にデジタル画像として取り込み喉頭披裂粘膜部に浸潤しているmast cellの総細胞数を計測した。更にSion Image Softwareを用いて喉頭披裂粘膜部の面積を測定し、単位面積あたりのmast cell数を算出し検討を行った。

【結果】有意差こそ出なかったが咳喘息群に比し喉頭アレルギー群において肥満細胞が多い傾向であった。